

## シーニックバイウエイルート提案の応募結果

### 1. 概要

シーニックバイウエイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウエイルートとして11ルートを指定、候補ルートとして1ルートを登録しています。

新たに「層雲峡・オホーツクシーニックバイウエイ」「天塩川流域ミュージアムパークウェイ」の2ルートについて提案がありました。

### 2. 提案のあったルート

○シーニックバイウエイ候補ルート（2ルート）

ルート名称	代表者名	代表者の所属	構成 団体数	関係市 町村数
層雲峡・オホーツク シーニックバイウエイ	にいぬま とおる 新 沼 透	社団法人 紋別観光協会	37	9
天塩川流域 ミュージアムパークウェイ	よしだ はじめ 吉田 肇	なよろ観光まちづくり協会	25	9

## ルート審査委員会の審査結果

## (1) シーニックバイウェイ候補ルート

## ①層雲峡・オホーツク シーニックバイウェイ

表1-1 【審査結果】

委員	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推薦 可否
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	○	—	—	○	景観、自然、レクレーション資源について優位性が認められる。	○
B	○	○	—	—	○	景観、自然、レクレーション資源について優位性が認められる。	○
C	○	○	—	—	○	①層雲峡とオホーツク海、サロマ湖は北海道を代表する景観資源で、十分優位性が認められる。 ②ルート内に点在する各景観資源もテーマや見せ方でそれらを補完し、ルートの総合的な優位性を向上する資源になり得る。 ③特に季節の移ろいを感じさせてくれる「花」というテーマを景観資源に据えたことは優位性を増幅させる取り組みである。	○
D	○	○	—	○	—	景観資源は豊富であり、連携によるきめ細やかな対応がとれさえすれば、他のルートにはない独自性を打ち出すことができる と考える。	○
E	○	—	—	○	—	①大雪連峰への玄関口としての層雲峡とオホーツクはそれぞれ、景観資源として優れたものと思う。 ②オホーツク文化は未だ、解明されていない面も多いようで、大きな「ロマン」がある。	○

表1-2 【付帯意見】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と関わり深い企業等との連携も視野に。</li> <li>・ この地域ならではのユニークさ（独自性）が不足。</li> <li>・ 大雪山をめぐるルートして、大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルートとの連携が必要。</li> <li>・ 資源と資源を辿る道路やルートといった線を中心にした紹介が必要。</li> <li>・ 季節を反映する資源がテーマとなっているので、季節歴、旬歴が必要。</li> <li>・ 農業や酪農、ブランド化させた海産物等地域に根ざした産業資源は十分「文化」となり得るので、これを「文化」として磨き発信することが必要。</li> <li>・ このルートが一番の強みは「食」で、これをいかに景観等とともに情報発信していくかしっかりと考えてほしい。</li> <li>・ ルートテーマについて、「感幸（観光）」という言葉に囚われず、シーニックという新たな広い概念を取り込んだネーミングを再検討。</li> <li>・ 異業種、NPOなど観光協会・商工会以外の活動団体とも連携し、シーニックとしての独自性が必要。</li> <li>・ 趣を異にする層雲峡とオホーツクを、一つの物にまとめ上げ、如何に訪れる人にわかりやすく伝えるかが課題。</li> </ul>
---

②天塩川流域ミュージアムパークウェイ

表 2-1 【審査結果】

視 点  委員	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推 薦 可 否
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	○	—	—	—	景観、自然資源について優位性が認められる。	○
B	○	○	—	—	—	景観、自然資源について優位性が認められる。	○
C	○	○	—	—	—	①手つかずの原生の自然、エコロジカルな景観、地元の産業資源、極寒地の雪国景観は国内では他に見られない優位性が認められる。 ②産業体験やエコツーリズム、日本有数の極寒地の雪国の暮らしなどを文化資源にする試みは今後期待される。 ③全国的に有名な幌加内の蕎麦はミュージアム化も含め文化資源につながる可能性はある。	○
D	—	○	○	—	—	①観光資源としての「景観」は育成しているが、全体を見渡して景観資源の有効活用がまだ行われていないと思える。 ②各地に点在している観光資源をどう結んでいくか、同質な資源を差別化しルートを周遊させる検討が必要。 ③まちづくりはそれぞれ特色があり、独自性をもっているため、これらを回遊することのメリット、魅力をどう打ち出せるかが鍵。	○
E	○	○	—	—	—	本地域は、自然の要素である寒さが一つのキーワードになるのではないかと。ダイヤモンドダスト、サンピラーは大変魅力的な要素であると思う。	○

表 2-2 【付帯意見】

- ・天塩川流域の天塩町も参加し、今までにはない道路、河川、港湾の3つの分野での活動を期待。
- ・ルート名の「ミュージアム」は、通常の「博物館」「美術館」として誤解をされる可能性があるため、「エコミュージアム」とした方がよい。
- ・下川町が環境モデル都市、環境未来都市の両方に認定されていることを踏まえ、森林組合の参加を検討のこと。
- ・冬期以外の季節の見せ方、楽しみ方のさらなる工夫、新機軸の開発が必要。
- ・道北3ルートの連携による相乗効果を生み出すためにも、宗谷シーニックパイウェイ、萌える天北オロロンルートの既存ルートとの連携は不可欠。
- ・広域連携の具体的な成果を期待。
- ・この連携により、他のルートや地域にはない特長、差別化を出せることを期待。
- ・「地域全体をミュージアム化」という具体的な方向性の不足が見受けられ、現状では熟度が不足気味。
- ・今後、ルートとしてのコンセプトをしっかりと話し合い固めて行き、シーニックとして連携した活動の充実及び既存団体や新たな地域の活動団体との連携を期待。

平成25年6月24日  
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイ候補ルートの登録について

○シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第18条第一項及び第二項の規定により、次のとおりシーニックバイウェイ候補ルートの登録を行う。

ルート名：層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

関係市町村：上川町、雄武町、興部町、西興部村、紋別市、滝上町、湧別町、佐呂間町、遠軽町（9市町村）

提案者：層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイルート運営代表者会議

ルート名：天塩川流域ミュージアムパークウェイ

関係市町村：和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町（9市町村）

提案者：天塩川流域ミュージアムパークウェイ運営代表者会議

なお、上記登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

## シーニックバイウェイ北海道推進協議会 意見

### ■シーニックバイウェイ候補ルート

#### ◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

#### ◆層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイに対する意見

層雲峡、オホーツク海、サロマ湖などは、北海道を代表する景観資源であり、特に「花」という資源は、他地域からの優位性が増幅される可能性が期待される。

一方、文化や歴史資源は乏しいことから、農業や酪農をはじめとする「産業資源」や本ルートの強みである「食」を磨き上げ情報発信することが必要である。

更に、隣接するルートや地域と深い企業との連携により、独自性を打ち出すことが重要である。

また、「感幸（観光）」という言葉に囚われず、シーニックという新しい概念を取り入れることで、プラスアルファを生み出すことが肝要であることから、ルートテーマの再考及び既存団体（観光協会、商工会）以外の活動団体の積極的参加を図る必要がある。

#### ◆天塩川流域ミュージアムパークウェイに対する意見

天塩川を中心とした手つかずの原生自然、エコロジカルな景観、極寒地の雪国景観は、国内でも他に見られない地域資源である。

但し、点在する地域資源の差別化を図りながら、ルート全体をミュージアム化するという具体的な方向性や活動目標・計画を策定することや、活動の相乗効果を生み出すため、既存ルートとの連携を図ることが重要である。

また、天塩川流域の連携強化のための「天塩町」の参入、地域の活動団体や森林組合等の参加促進、計画推進に向けた分科会等の活用など、組織体制の強化・見直しが必要である。

併せて、「博物館」「美術館」との誤解される可能性があるため、ルート名の「ミュージアム」について変更の検討が必要である。